

農と出会い、農に生きる



日本の農業は、このままいけば崩壊してしまう危機的な状況にあると言われています。食糧環境セミナーでは「農と出会い、農に生きる」というテーマで、有機農業をこころざして新規に就農された若い人たちをはじめ、生業としての農業だけでなく、多様な農とのかかわり方を模索し、それを生き方のモデル、スタイルにしていこうと活躍している人たちを4回のシリーズで紹介します。

子育ての中で食の安全に目覚めた人、土をさわると元気になる人、食べ物をつくることに少しでも関われば暮らしのリアリティーを取り戻せるかもしれない。都会の暮らしの中で、人間が本来生きることや自然との矛盾に息苦しくなり、自然と調和した労働や暮らしが改めて求められているのではないのでしょうか。

こんな動きが、やがて地域の活性化にもつながり、社会全体の病的状況を改善していくきっかけになるのではないかと思います。

9月30日(水) 午前10時30分~12時

兵庫県市島町で農業を始めて

奥丹波ブルーベリー農場・古谷暁子さん

市島町に就農して6年目。有機JASも取得し、4反あまりのブルーベリー観光農園を夫、子どもの三人でしています。摘みに来る人の喜ぶ顔がうれしいとのこと。今後はイチジクやキンカンなども植えて食品加工にも挑戦してみたいそうです。

谷水農場・谷水大祐さん

大学を卒業して一旦は就職したが、「ものづくりがしたくて」陶芸の道に入る。しかし6年余りで断念。土まみれの陶芸から土に生きる暮らしに興味を持ち、今は自分で栽培した有機野菜の漬物を販売しています。今後も販路を広げると夢は膨らんでいます。

10月28日(水) 午前10時30分~12時

脱サラ、そして有機農業

五島農園・五島隆久さん

長年勤めた大手企業を退職し有機農業を目指す。神戸市西区櫛谷町の圃場にて就農し、兵有研会員、有機JAS認証を取得。数件の納入先を確保し、収量の向上を目指しながら、どうすれば草や虫と共存して行けるかを模索中。

11月25日(水) 午前10時30分~12時

いちごとトマト、そして、こどもを育てて

淡路小林農園・小林剛彦さん

神戸生まれの神戸育ち。都会っ子が淡路島で農業(いちごの栽培)の魅力にとりつかれ早9年。「農家はいつも1年生」と言われるほど毎年同じようになることはありません。いちご・トマト・子育てと忙しい毎日。そんな小林さんの奮闘記の報告です。

12月9日(水) 午前10時30分~12時

半農半X(エックス)のすすめ

綾部市・半農半X研究所代表 塩見直紀さん

半自給的な農業と、やりたい仕事を両立させる生き方を「半農半X(エックス)」と名づけ、人間の心を大切にする暮らしを自ら実践している。経済成長至上主義が生み出した問題がふれる現代で、そんな夢のような暮らし方ができる……。

会場：神戸学生青年センターホール TEL 078-851-2760

(阪急六甲下車徒歩3分、JR六甲道下車徒歩10分)

参加費：600円 託児(無料)があります。必要な方は前々日までに予約してください。

主催：神戸学生青年センター TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878

〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 ホームページ <http://ksyc.jp/> e-mail info@ksyc.jp

